

二十六場面百八十体蠟人形が
龍馬を語る龍馬歴史館

龍馬歴史館に足を一步踏み入ると、目の前に龍馬が立っている。もちろん蠟人形なのだが、臨場感があり、実に精巧に出来ている。龍馬の出生から乙女姉さんとの水練、そして勝海舟との出会い、薩長同盟、近江屋での暗殺まで、藩という小さな枠にとらわれず世界に目を向け、激動の時代を駆け抜けたひとりの風雲児、坂本龍馬の三十三年の生涯を龍馬を取り巻く巨星たちと共に再現している。

時代を追ってひとつ一つの場面をじっくりと眺めて行くと、自然と龍馬という人間の偉業が頭の中にリアルにイメージされていく。龍馬と共にその場に居合わせたような気分になってしまふ。鮮血の幕末絵師「絵金」屏風絵十六双も展示している。



建依別たけよわべに男ありき
古来より「土佐」の別名「建依別」とは、荒々しい勇武の風を表現する言葉。幕末の龍馬はまさに建依別。土佐が生んだ奇跡である。



蠟人形で巡る龍馬の生涯

史実に基づいて再現された臨場感あふれる場面が龍馬に対する親しみをより強くしてくれる。龍馬を語る上で欠かすことのできない26場面の決定的瞬間とでもいうべきシーンがリアルな蠟人形によって表現されている。右上「龍馬誕生」、右中「勝海舟との運命の出会い」、右下「日本商社の原型『龜山社中』」、左上「薩長同盟成立」、左中「近江屋の惨劇」、左下「寺田屋の変」。

